プールヴィルの海
—モネの作品の改題について

黒江光彦

La mer de Pourville

À propos de la correction du titre d'un tableau de Monet, par Mitsuhiko KUROE

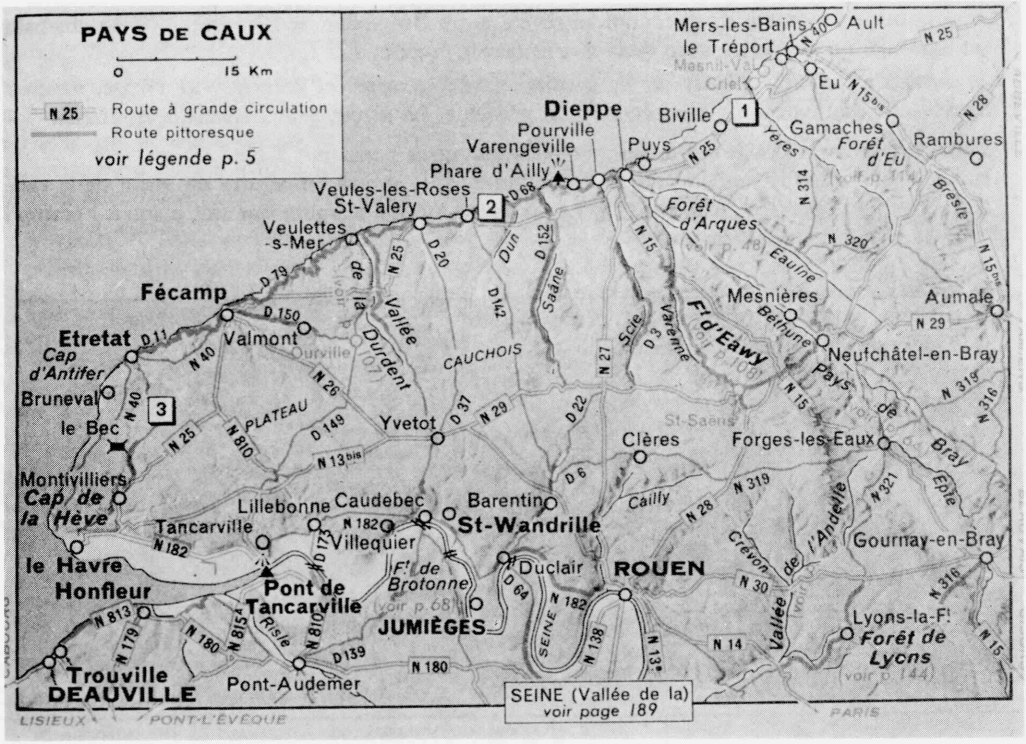
国立西洋美術館所蔵の作品の中に，モネが1897年に描いた《波立つトゥルーヴィルの海》とよばれる油彩画がある。所蔵番号 P-207（写真1）。当館年報 No.2（1968）に掲載された拙稿「日本所在のモネ作品」[1]および『モネ』（集英社，1970年）[2]中の図版解説（p. 131）においてすでに指摘したとおり，セーヌ河口から北の海岸にあるプールヴィルにおいて制作されたもので，“トゥルーヴィル”は誤りである。

この作品を含めて，当館の所蔵品の基幹をなすいわゆる旧松方コレクションに属する作品の題名は，1959年4月，フランス政府より日本政府に寄贈返還された際，日仏政府間に取り交わされた公文書に添付されたリストに基いて作成された輸送関係用の松方コレクション内容明細書によっている。筆者も，当館開設準備にたずさわり，日本語題名の作成に協力したので，その書類を実見している。そこには“Mer agitée à Trouville”と記載されていた。従って《波立つトゥルーヴィルの海》と公式に決定された。『国立西洋美術館開館記念目録』[3]（1959年）に発表されて以来，当館の『総目録』[4]（1961年版）など，この題名が踏襲されてきている。

おそらく単純な書き間違いあるいは綴字の読違いが原因でこうなったのであろうが，日本語題名作成の際に，トゥルーヴィルないしプールヴィルの地形を熟知していたならば，このような誤りを訂正できたと思われて，悔まれる。筆者は当館年報 No.2 のために「日本所在のモネ作品」を準備している折，当時ルアーヴル市立美術館長で来日中のパトリス・ユーグ氏に，セーヌ河口から右岸側（北側）の海岸線と，左岸側（南側）のそれとの地形の違いを教示された。すなわち，トゥルーヴィルのある左岸側は，なだらかな砂浜で，モネが1870年パラソルをさすカミーユを描いた作品[5]などでわかるように，人でにぎわう開けた土地柄である。それに対して，右岸側は，断崖が続き，荒れた地形で，モネが1883～86年によく描いたエトルタやディエップ，また後者のすぐ西隣りの村でここで問題になっているプールヴィルなどが，この右岸側に点在する（地図）。

また，この事実がわかっていれば，この作品の画布を張った木枠上や額縁の裏面に貼られた判読可能な各種のラベル[6]に記入されている題名に“Pourville”の文字がみられるのは何故かという疑問も氷解したのであった。作品の到着前後のあわただしさの中で，公式の書類の方に信頼を寄せたことも，誤謬を見逃した原因であった。

こうした資料によって，《波立つプールヴィルの海》と改題しなければならないことはいうまでもないが，さらに同じ海岸を描いた作品と照合することによっても，プールヴィルの海を描いたことを証明することができる。1970年10月—11月，東京，大阪，福岡で開催された「モネ名作展」に出品された米国個人蔵の《プールヴィル風景》（1897年写真2）[7]が，その一つである。カンヴァスはやや小さいが（63.7×98.7cm），当館作品と同じように，強風にあおられた荒波の沸き立つ海面と断崖のシルエットを主題にしている。騒然とした筆触もまた，同趣の即興性



地図（**Guide Michelin : Normandie** より転載）

をもったものであり，色調の違いは，これこそモネの「シリーズ」の概念通り，自然の「相」の違いを描き分けたものにほかならない。

当館の作品は，署名とともに書き込んである制作年によって，1897年のものであることは明白であるが，事実モネは，1月にジヴェルニーを発って，3ヵ月間プールヴィルに滞在したのであった。1897年1月17日付のデュラン・リュエル氏に宛てたモネの手紙では，「明日」(18日)出発予定と書いてあるが，しかし同年1月20日付のやはりデュラン・リュエル氏宛の手紙はジヴェルニーから発信されていて，正確に出発した日付を知ることはできないが，おそくとも2月初めにはすでにプールヴィルに滞在していたことは，別の手紙の差出し地から判明する[8]。

この制作旅行の目的は，モネ自身がいっている言葉によれば，「ジヴェルニーには雪がなく」「前年に描きはじめた絵を完成するため」[9]であった。1897年の旅行は従って，二度目のものであった。1895年6月以降，健康を害し，その年の後半はずっとジヴェルニーですごしていたモネは，小康を得て，1896年2月半ばから，ヴァランジヴィルとプールヴィルに数ヵ月滞在して，心身をこのノルマンディーの海辺で癒したのである。そのとき断崖を主題に数多くの作品を描いている。きわめてモネの感興をそそった土地であったことは，翌97年に同じ時候を選んで，再び足を向けたことによっても，うかがい知ることができる。

プールヴィルには，モネはこれより15年前の

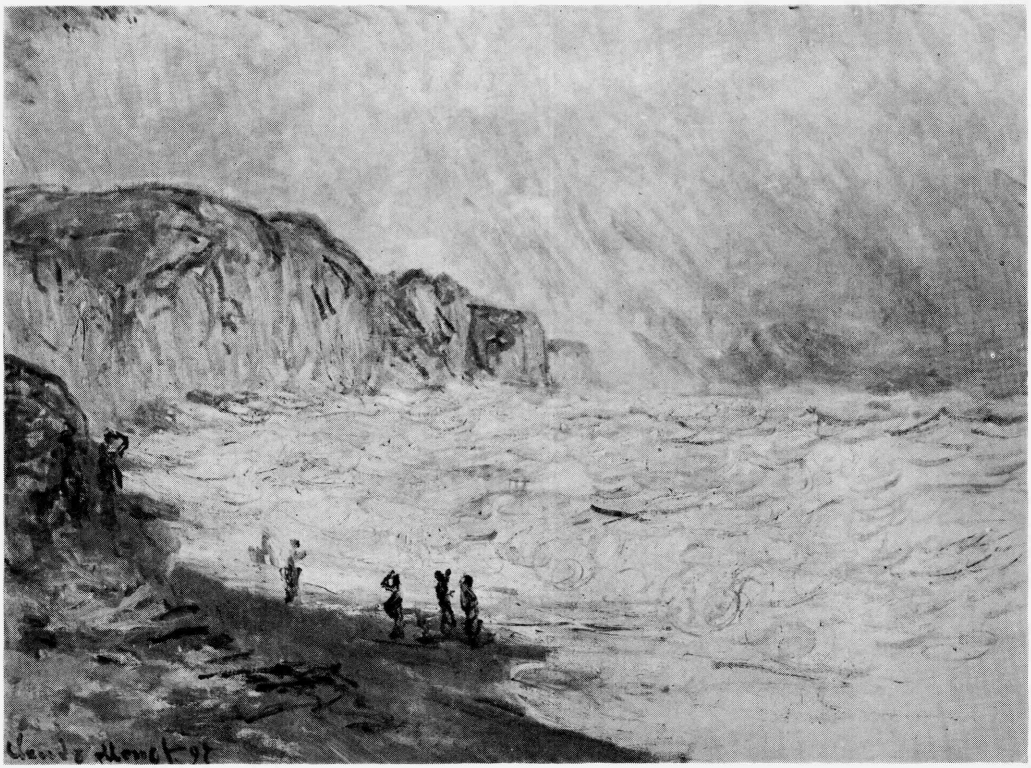


写真1　クロード・モネ《波立つプールヴィルの海》1897年，油彩，カンヴァス，73×101cm

1882年に，すでに制作に赴いたことがあった。当時ポワッシーに家族を住まわせていたモネは，2月5日にディエップに向けて出発し，ついでプールヴィルに足をのばし，ペール・ポール（ポール親爺）夫妻が経営する小さな宿屋に泊って，5月末までここで制作した。長い逗留の結果，ポール親爺さんと親しくなってその肖像画を描き，《ガレットのある静物》(10)をこの宿の主人に贈っている。そしてこの断崖や海辺に立って描いたのが，シカゴ美術研究所所蔵の《断崖の上の散策》(11)や《プールヴィルの魚網》(12)，《プールヴィルの断崖》(13)などであった。

それから15，6年後，同じ宿屋に泊ったかどうかは詳らかでないが，プールヴィルは3ヵ月間の制作に耐えるだけの新たな興味の対象となっていたのである。プールヴィルから出した1897年4月1日付のデュラン・リュエル宛の

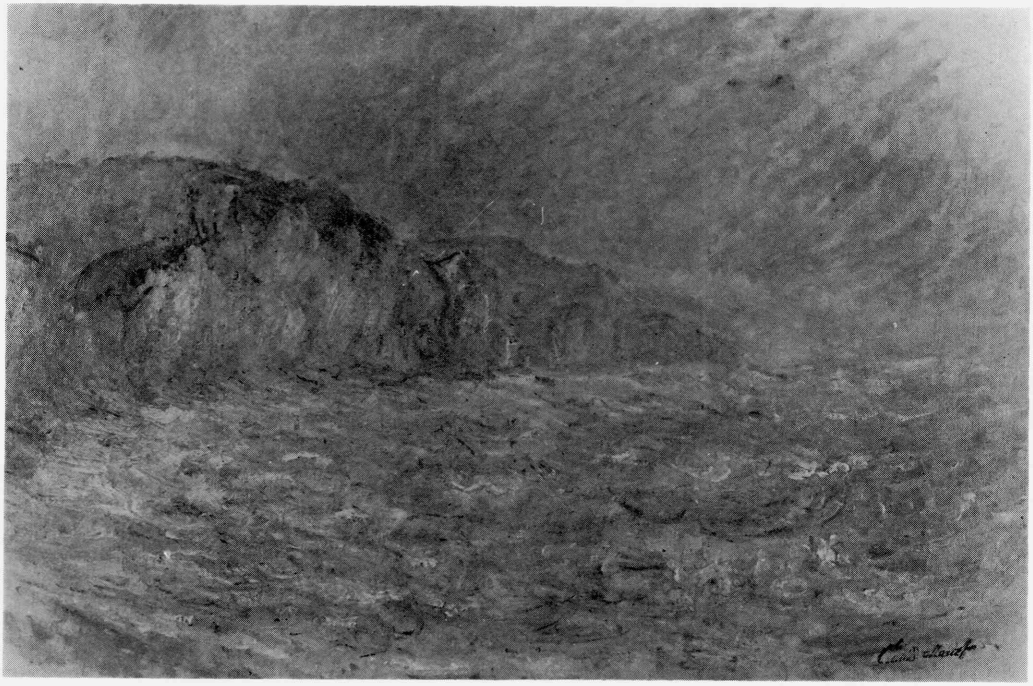


写真2　クロード・モネ《プールヴィル風景》1897年，油彩，カンヴァス，63.7×98.7cm

手紙[14]の一節に，モネは次のように書いている――

「かなりひどい天気だが，制作を続けている。なにかものすることができるかどうかはわからないが，ともかくも，次の冬にもここに来ようと心に決めている。というのは，ここはすばらしいものができそうなところだからだ」。

4月末まで，モネはここで，波立つ海はもとより，天気の変化につれて断崖の上に織りなす光の変幻を描いた。断崖の一角を大胆に画面全体にクローズアップした絵の一枚が，わが国にもある[15]。1898年6月，パリのジョルジュ・プティ画廊で61点の近作をもってひらかれたモネ展には24点の断崖の連作が含まれて，96～97年の二冬にわたるプールヴィル制作の成果を発表したのであった。

当館所蔵の《波立つプールヴィルの海》が，1898年の個展に出品されたかどうかは詳らかではないが，裏面に貼付されて残っているラベルによれば[註6の(1)(2)(5)]，1959年，日本に返還さ

れるまで，フランス政府が管理する作品の一つとして，少くとも三つの展覧会に出品されていることがわかる。その中にジャン・カスー Jean Cassou の名がみられるのは，松方コレクションが日本に戻るまで，パリの国立近代美術館によって保管されていて，カスー氏は当時，その館長であったからである。このような例は，同じくモネの《並木道》(P-205) が1956年モスクワで開かれた「フランス19世紀絵画展」に出品されたり，《舟遊び》(P-206) や《睡蓮》(P-209) が1959年ルーアンで開かれた「フランス風景展」に出品されている場合にもみられる。従って，当館所蔵作品の多くのものについて，1959年以前の足取りについても，改めて研究する必要がある。

註

(1) 『国立西洋美術館年報 No. 2』(1968年) pp. 2–61「日本所在のモネ作品」序：中山公男　カタログ：黒江光彦

(2) 黒江光彦著『モネ』(集英社，現代世界美術全集 2, 1970年)

(3) 『国立西洋美術館開館記念目録』(1959年)図版，カタログ番号 P-207

(4) 『国立西洋美術館総目録』(1961年) 作品番号 P-207

(5) モネ《トゥルーヴィルの浜》*La plage de Trouville*, 1870年，油彩，カンヴァス，38×46.5 cm，ロンドン・テート・ギャラリー
モネ《海岸の二人の女》*Deux femmes sur la plage*, 1870年，油彩，カンヴァス　38×46 cm，ミッシェル・モネ旧蔵，パリ・マルモッタン美術館

(6) ラベルは，展覧会出品票，輸送業者による心覚など，当館に入るまで，9 枚貼りつけてある。うち Pourville と書いてあるものは，5 枚。

1. *KUNSTHAUS ZÜRICH*
Künstler: C. Monet
Titel: Mer agitée à Pourville
Besitzer: Slg. Matsukata, Paris
Katalog-Nr.: 90
(各項タイプ印字)

2. *DIENST VOOR SCHONE KUNSTEN 'S-GRAVENHAGE*
TENTOONST: *Monet*
DAT.: *Aug. '52*
KUNSTENAAR: *Monet*　H.: B.:
TITEL: *Mer agitée à Pourville*
CAT. Nr.: 71
INZENDER: *M. Jean Cassou*
INV. Nr.:
(各項タイプ印字, Cat, Nr. のみ手書き)

3. Mer agitée à Pourville 1897 (手書き)

4. Monet
Mer agitée à Pourville (手書き)

5. *EXPOSITION d'* MATSUKATA
CHENUE, EMBALLEUR N°.....
de Tableau*x et Objets d'art*
5. Rue de la Terrasse-Paris (17e Arrt)
Nom　Claude Monet
Titre　"Mer agitée à Pourville"
(Peinture à l'huile)
他の作品のラベルにより復元すると，上記のように梱包業者 CHENUE が記入していることがわかる。イタリックのみ残存。作者名，題名はタイプによる印字。

(7) モネ《プールヴィル風景》*Pourville*, 1897年，

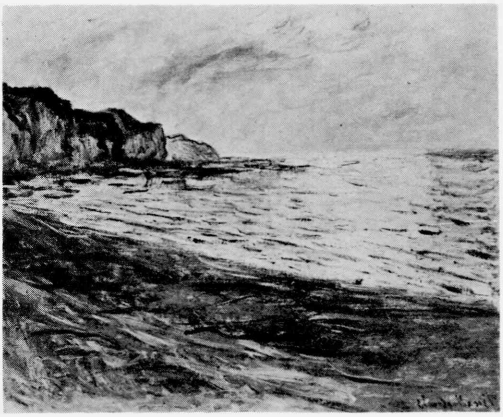


写真 3

油彩，カンヴァス，63.7×98.7 cm，アメリカ・個人蔵，「モネ名作展」カタログ番号 21，図版あるいはマルモッタン美術館で 1971 年 初夏より公開されたミッシェル・モネ遺贈の作品の中に《プールヴイルの海岸》*La plage à Pourville* (1897) がある。油彩，60×73 cm，右下に署名：Claude Monet. (N° d'inv.: 5008)，同館カタログ *Monet et ses amis*, cat, n° 25, pl. 写真3

(8) Lionello Venturi, *Les Archives de l'Impressionnisme*, 2 vols, 1939, Paris-New York, Durand-Ruel のうち第 I 巻 pp. 364—366 にデュラン・リュエル氏宛に出した 1897 年代の手紙が掲載されている。ジヴェルニーより，1 月17日付の手紙：資料233; ジヴェルニーより，1 月 20 日付の手紙：資料 234；プールヴィルより，日付なし（2 月はじめ）の手紙：資料235；プールヴィルより，4 月 1 日：資料 236；ジヴェルニーより，5 月11日付の手紙：資料 237

(9) 1957年「モネ展」(An Exhibition of Paintings, Claude Monet, The Tate Gallery, 26 September–3 November 1957) カタログの年譜，1897 年の項に引用されてある：
"there is no trace of snow at Giverny", "to finish pictures started the previous year which interest me a great deal and which I am quite pleased with."
（年譜作成 Biographical Chronology by John Richardson）

(10) *Nature morte aux Galettes* (Coll. Durand-Ruel)

(11) *The Cliff Walk*, 1882年，油彩，カンヴァス，25 3/4×32インチ，The Art Institute of Chicago (Mr. and Mrs. Lewis L. Coburn Memorial Collection)

(12) *Fishing Nets, Pourville*, 1882年，油彩，カンヴァス，61×81.3 cm，Gemeentemuseum, The Hague

(13) *Cliffs, Pourville*, 1882年，油彩，カンヴァス，60×81 cm，Coll. Mr. N. H. van Heek, Enschede

(14) 既出の文献，Venturi: *Archives de l'Impressionnisme* の資料 236 の手紙の最後の部分：
Je continue à travailler malgré un bien mauvais temps et je ne sais si j'arriverai à pouvoir terminer quelque chose, mais du reste je suis décidé de revenir l'hiver prochain, car il y a à faire des choses superbes.

(15) モネ《断崖》*La falaise*, 1897年，油彩，カンヴァス，73.5×92.5 cm，東京，個人蔵。年報 No. 2「日本所在のモネ作品」カタログ番号 24，テキスト，p. 16，図版 p. 47；「モネ」集英社，図版 V (p. 125)，テキスト第 45 (p. 132).